

持続的成長への

# CSR重要課題 (マテリアリティ)

雪印メグミルクグループは、持続的な成長を目指し、社会課題基点での取組みを推進するために、社内における十分な議論および外部との意見交換を経て、2018年9月にCSR方針を改定し、CSR重要課題(マテリアリティ)を特定しました。また、2019年8月にCSR重要課題の進捗を確認しPDCAマネジメントを行うために、KPIを設定しました。

| CSR領域   | CSR重要課題(マテリアリティ)   |
|---|--|
|  <b>食と健康</b>   | <b>乳(ミルク)による食と健康への貢献</b>      |
|  <b>酪農</b>   | <b>持続可能な酪農への貢献</b>       |
|  <b>環境</b>   | <b>環境負荷の低減</b>       |
|  <b>人と社会</b> | <b>多様な人材が活躍できる職場の実現</b>        |
|   | <b>地域社会への貢献</b>        |

## CSR方針

企業理念※1に基づき、事業活動を通じて、社会とともに持続的に発展していくための経営を推進します。

### <基本的な考え方>

- コンプライアンス※2を基本とし、商品・サービスの安全確保（品質保証）の徹底を最重要項目として取り組みます。
- お客様・消費者をはじめとしたあらゆるステークホルダーを重視し、「社外の目」を反映した経営に取り組みます。
- 持続可能な社会の実現のため、CSRの重要課題（マテリアリティ）を特定し、社会課題の解決に向けて取り組みます。

※1 企業理念は、私たちの使命「消費者重視経営の実践」「酪農生産への貢献」「乳（ミルク）にこだわる」と、コーポレートスローガン「未来は、ミルクの中にある。」で構成します。

※2 コンプライアンスには、法令の遵守はもとより、社内および社会の規範、社会の倫理的価値観の遵守を含みます。

| 重点取り組みテーマ                | 達成年度                    | KPI   |
|--------------------------|-------------------------|---|
| 安全で安心していただける商品・サービスの提供   | 2022                    | ・2022年度までに、雪印メグミルクブランド製品を製造している国内外の食品施設の75%以上において、GFSIに認定された国際的な食品安全スキーム（FSSC、SQFなど）の認証を取得し、以降についても更なるGFSIの認証取得拡大を進める。（G） |
|                          | 2022                    | ・風味評価技能を持つ官能評価員認定者を育成する。（官能評価員認定者数：2017年度比110%以上）   |
| 健康寿命延伸への貢献               | 毎年                      | ・乳（ミルク）を通じて健康寿命延伸に貢献する研究開発、商品開発、サービス提供、情報発信を行う。（G）  |
|                          | 2026                    | ・健康寿命延伸への貢献を重点テーマとした食育活動を実施し、2019～2026年度で年間平均4.5万人の参加者数を目指す。  |
| 酪農生産基盤強化への取り組み推進         | 毎年                      | ・日本酪農青年研究連盟の運営支援および酪農総合研究所の活動により、持続的酪農経営を行うための経営管理・技術的支援を行う。（G）   |
| 地球温暖化の防止                 | 2030                    | ・CO <sub>2</sub> 排出量を、2030年度までに2013年度比30%削減する。  |
| 持続可能な資源の利用               | 2022                    | ・2022年度までに、使用する紙を100%環境に配慮した原材料にする。   |
|                          | 2026                    | ・2026年度までに、認証パーム油100%調達を目指す。<br>・環境に配慮した包装容器を開発・使用し、プラスチック使用量の減少および再資源化を図る。（2020年度末までに数値目標を設定する）                          |
| 循環型社会の形成                 | ①2030<br>②2030<br>③2019 | ・廃棄物に対して、以下の通り取り組む。<br>①2030年度までに廃棄物排出量を2013年度比30%削減する<br>②2030年度までに廃棄物リサイクル率98%以上<br>③2019年度までに食品廃棄物リサイクル率95%以上          |
|                          | 毎年                      | ・環境に配慮した商品開発を推進する。（既存商品・新規商品の賞味期限の延長や、賞味期限の年月表示を積極的に推進）   |
|                          |                         | ・水資源の有効利用を推進する。（2020年度末までに数値目標を設定する）  |
| 人材の多様化と人材育成              | 2025                    | ・2025年度までに女性経営職（管理職）比率10%以上にする。   |
| ワーク・ライフ・バランスの実現と労働生産性の向上 | 毎年                      | ・健康経営優良法人制度認定を取得する。   |
| 地域社会とのパートナーシップ           | 毎年                      | ・地域と連携し、社会課題解決に貢献する。（G）   |

（G）は雪印メグミルクグループとしてのKPIです。それ以外は雪印メグミルク（株）のKPIです。



食と健康

# 乳(ミルク)による 食と健康への貢献

雪印メグミルクグループは、乳(ミルク)による食の提供を通じて、人々の健康増進や豊かな食生活に貢献していきます。また、お客様の声に耳を傾け、商品・サービスに反映することで消費者重視経営を実践し、安全で安心していただける商品・サービスの提供を目指します。

商品・サービス 🔄 特集 P.7-12

## 食育活動

全国6カ所に専任スタッフを配置し、小中学校への「食育出前授業」や各種「セミナー」「料理講習」の3つの活動を中心に、「食の大切さと尊さ」「牛乳・乳製品の価値」を幅広い年代の方に伝え、「食」を通して皆様の健康づくりのお手伝いをしています。2018年度には、約42,000名が参加しました。

### 「食と科学のふしぎ博」イベント参加

大阪市で開催された「食と科学のふしぎ博」((株)新興出版社啓林館 主催)において、約200名の子供たちに「牛のミルクからバターができるまで」のテーマでビデオの視聴やバター作りを体験していただきました。バターができる様子に子供たちは驚き、目を輝かせていました。科学の視点を持った魅力ある出展内容が、主催者からも評価されました。



### 骨・カルシウムセミナー

骨の健康の重要性や必要な栄養素、カルシウムの働きや効率的な摂取方法など、骨の健康維持に必要なポイントを伝えています。



### チーズを美味しく楽しむ会

チーズの歴史や製造方法、栄養価値やタイプ別のチーズの違いなど、チーズの素晴らしさや食べ方をわかりやすく伝えています。



## Voice



雪印メグミルク  
関西販売本部  
関西コミュニケーション  
センター

坪田 潮里

### 牛乳・乳製品の価値をお伝えしていきます。

私たち食育チームは、日々、出前授業や料理講習会、各種セミナーなど食育活動に励んでいます。私は家庭用営業を経験した後に、食育担当となりました。栄養士としてのスキルと営業での経験を活かしながら、先輩方の良いチームワークを引き継ぐため「自分が今すべきこと・できることは何か」を常に考えて行動しています。

日本は世界一の長寿国ですが、平均寿命=健康寿命とは言えない現状にあります。手軽で美味しい牛乳・乳製品には多くの健康機能があるので、健康寿命の延伸という点でも自信を持ってオススメできます。今後もひとりでも多くのお客様にお会いし、牛乳・乳製品の価値をわかりやすく、楽しく誠意を持ってお伝えしていきたいです。

## 工場見学

雪印メグミルクグループ全国11カ所の見学工場では、一般見学用ルートを設け、製造時における衛生管理や検査体制といった安全・安心に対する取組みをはじめとした企業活動の情報発信を積極的に行っています。2018年度は、約69,000名にお越しいただきました。

### 自由研究をテーマとした工場見学会(海老名工場)

近隣の小学生とご家族向けに夏休みの自由研究をテーマとした工場見学会を実施しました。「牛乳紙パック工作」「発酵・菌の動き」「ホイップクリーム・バター作り」の3テーマに分かれて学習した後、実際の製造工程を見学していただきました。



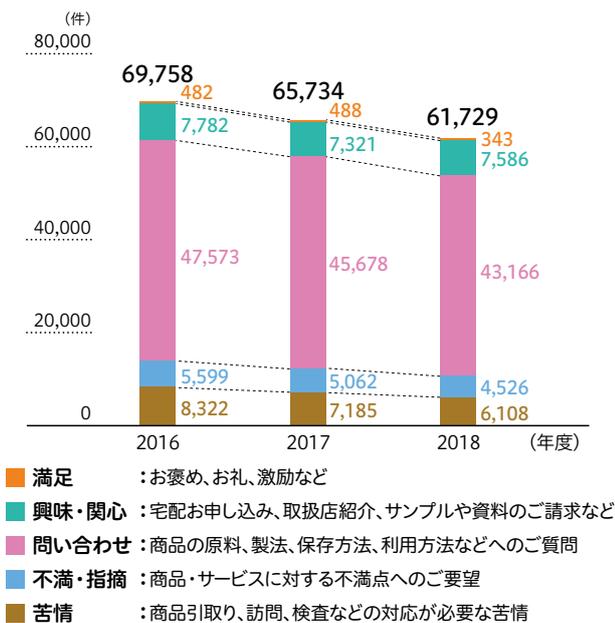
## お客様の声から 更なる安全・安心へ

お客様の声にお応えしました

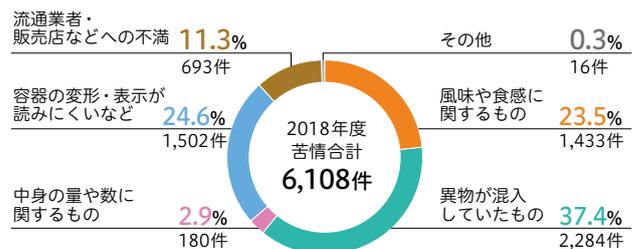
👉 <https://www.meg-snow.com/customer/center/voice/>

お客様・消費者の声に真摯に向き合い、いただいたご意見を企業活動に反映し、更なる改善のため不断の努力を行っています。

### お客様センターの受付件数



### 受付件数の中での「苦情」の内容



### 苦情のうち、検査ができた商品の起因別内訳

2018年度の苦情のうち、該当商品の提供をいただいた4,471件について検査を実施しました(それ以外はお客様がすでに中身を破棄されたなどで、検査ができなかったものです)。検査の結果、生産関係に起因するものが195件で、その情報は原材料メーカーや雪印メグミルク製造工程の改善、商品設計の改善に役立てました。また、263件は流通段階での破損などであり、その情報は流通部門の改善に役立てています。なお、検査結果はお申し出をされたお客様ご本人にも報告しています。

## 先天性代謝異常症治療用特殊ミルクの開発と供給

特殊ミルクは、生まれながらにしてアミノ酸などの代謝が十分にできない方のために使用される粉ミルクです。通常のミルクや食事と合わせて使用し、症状改善のために食事療法として使用されます。雪印メグミルクでは、こうした方の治療のために、特殊ミルクを国内で初めて開発し、1963年から継続して製造・供給しています。



### 製造・供給している特殊ミルク品目

| 品目                           | 対象疾患       |
|------------------------------|------------|
| 医薬品<br>(2品目)                 |            |
| Phe 除去ミルク配合散「雪印」             | フェニルケトン尿症  |
| Leu, Ile, Val 除去ミルク配合散「雪印」   | メープルシロップ尿症 |
| 登録<br>特殊ミルク<br>(6品目)*        |            |
| Phe 無添加総合アミノ酸粉末              | フェニルケトン尿症  |
| Met 除去粉乳                     | ホモシステチン尿症  |
| Phe, Tyr 除去粉乳                | 高チロシン血症    |
| 蛋白除去粉乳                       | 高アンモニア血症   |
| Ile, Val, Met, Thr, Gly 除去粉乳 | メチルマロン酸血症  |
| Lys, Trp 除去粉乳                | プロピオン酸血症   |
|                              | グルタル酸血症1型  |

\*「社会福祉法人 恩賜財団 母子愛育会 総合母子保健センター 特殊ミルク事務局」の指示により製造・供給

▶ CSR重要課題(マテリアリティ)



# 持続可能な酪農への貢献

雪印メグミルクグループは、持続的酪農経営を行うための経営管理・技術的支援、そして酪農に対する消費者理解の醸成に向けた取組みにより、国内酪農の成長に貢献していきます。

## 雪印メグミルクグループが取り組む酪農貢献

- 1948年～ ■ 日本酪農青年研究連盟(酪青研)**  
雪印メグミルク、雪印種苗(株)、八ヶ岳乳業(株)が、事務局として活動をサポートしています。
- 1950年～ ■ 雪印種苗(株)**  
配合飼料を中心とする「酪農畜産事業」、飼料作物や野菜などの種子・苗木の開発と生産を担う「畑作園芸事業」、屋上緑化などを得意とする「環境緑化事業」を中心に、環境保全型農業の普及を目指した事業活動を行っています。2017年には、北海道研究農場新研究棟が完成しました。
- 1954年～ ■ ニチラク機械(株)**  
牛乳・乳製品などの食品工場向けの製造機器メーカーで、チーズ工房を営む酪農家に対しても小型製造機器の提供や技術指導を行い、酪農家の乳製品製造技術向上(六次産業化)に貢献しています。
- 1965年～ ■ (株)雪印こどもの国牧場**  
様々な体験を通じて「食と命」を感じ取り、酪農への理解を深めていただくための活動を行っています。
- 1976年～ ■ 酪農総合研究所**  
民間唯一の酪農専門研究機関として設立。現在は雪印メグミルクの社内研究所として、調査研究や酪農サポートのほか、毎年シンポジウムを開催しています。
- 1977年～ ■ 酪農と乳の歴史館**  
歴史を振り返ることで、酪農への理解と関心を深めていただいています。北海道遺産、近代化産業遺産に登録されています。
- 2009年～ ■ 酪農諮問委員会**  
高い見識と豊富な経験を有する酪農生産者・有識者委員からご意見・ご助言をいただいています。

■ 酪農経営の調査研究と普及に資する組織  
■ 酪農理解のためのPR施設



雪印種苗 北海道研究農場新研究棟



雪印こどもの国牧場(神奈川県横浜市)



酪農と乳の歴史館(札幌市)



酪農諮問委員会

## 「第70回 日本酪農研究会」開催

日本酪農青年研究連盟(酪青研)主催の「第70回 日本酪農研究会」が、全国から約280名の参加者を集めて11月に静岡で開催されました。

酪青研は、戦後混乱期に北海道酪農の復興に取り組む青年たちの自主的な活動に共感した黒澤酉蔵\*が尽力し、1948年に誕生しました。現在は、全国約1,000名の酪農生産者で組織する日本で最も歴史ある実践的研究団体です。雪印メグミルクグループでは、設立当初より事務局を担い、地域単位から全国における活動に対して継続的に支援をしています。

「第70回 日本酪農研究会」では、全国から選抜された酪農家7名による酪農経営発表と5名の意見メッセージ発表が行われ、特徴ある経営成果や酪農への取り組みについて披露いただきました。経営発表の事例はいずれも、今日の日本での持続的な酪農経営に求められる取り組みであり、遭遇する多くの課題への対策やヒントも現場にあることを改めて認識することができる発表となりました。

また、人材育成および企業風土醸成の一環として、研究会には雪印メグミルクの入社2~4年目の社員20名が聴講生として参加し、雪印メグミルクグループのルーツである日本酪農への理解を深めるとともに、自身の担当業務における酪農への貢献について考える良い機会となりました。「第70回日本酪農研究会」発表風景



\* 黒澤酉蔵:1885年生。雪印種苗(株)、雪印メグミルクの前身の一つである北海道製酪販売組合連合会、北海道酪農義塾(現・酪農学園大学)の創立者。北海道開発と日本の酪農の発展に尽力した。

## 酪総研シンポジウム

酪農総合研究所は、1976年に民間唯一の酪農専門研究機関として雪印乳業(株)(当時)によって設立されました。2005年からは社内研究所となり現在に至っており、酪農に関わる調査研究、酪農サポート活動のほか、毎年「酪総研シンポジウム」を開催しています。

「酪総研シンポジウム」は、1978年\*から今まで42回の長きにわたり継続して開催しています。毎年テーマを決め、酪農に携わる有識者・研究者・酪農指導者・酪農生産者を講師として招き、酪農にかかわる制度・政策から実際の生産現場での活用技術についての提言・知見・情報提供などをいただいています。また、会場参加者とのディスカッションを通じ、酪農情勢などの共通認識の醸成、知見・技術の現場への活用や普及を図ることで、酪農生産現場への貢献を果たしています。

2018年度は「『酪農現場の“カイゼン”を考えるⅢ』〜少額投資で生産性の向上を!〜」と題して開催し、全国から約240人の酪農関係者が参加しました。大型投資に頼らない「ゼロ投資」あるいは「少額投資」で生産性(生産乳量)をいかに上げるかについて、乳牛の行動や生理からのアプローチによる飼養管理や環境の改善、牛群検定システムの活用による生産者支援について3名の方にご講演いただき、会場参加者との意見交換を行いました。これからは「酪総研シンポジウム」を継続して開催し、日本の酪農の持続的発展に寄与していきます。

\* 当時の名称は「酪農講演会」



「酪総研シンポジウム」意見交換

### Voice



橘牧場  
橘 和宏

**酪青研は、互いの立場を超えた付き合いができ、情報交換の場として非常に有意義です。**

私は酪青研には1983年から入会していますが、全国の酪農家の仲間たちと上下関係なく友だちみたいな付き合いができています。また、事務局との交流にも垣根がなく、酪青研の海外研修に行った際には、当時の事務局だった雪印乳業社員と一緒にヨーロッパの酪農家の家に民泊して、寝食を共にしたりしました。雪印メグミルクグループの社員をはじめとした事務局がないと酪青研活動が成り立たないのはもちろんのこと、事務局の方とも互いの立場を超えた付き合いができ、情報交換の場として非常に有意義です。2019年11月には成田市で、「第71回 日本酪農研究会」が開催されるので、多くの方に参加してもらいたいと思います。



環境

▶ CSR重要課題(マテリアリティ)

# 環境負荷の低減

酪農は、牛や牧草はもちろん、それを育む気候や自然から成り立っています。酪農を基盤としている雪印メグミルクグループは、従業員一人ひとりが環境に配慮した事業活動を心がけ、持続可能な地球環境に貢献していきます。

## 雪印メグミルク環境方針

私たちは、「雪印メグミルク行動基準」に則り、環境マネジメントシステム(EMS)<sup>\*</sup>を構築し、環境負荷低減を図ります。そして、自然の恵みから生まれるミルクを中心とした事業活動と地球環境の共生に努めます。

### 1. 法令の遵守

環境法令・条例などを遵守し、法改正などに迅速に対応します。

### 2. 環境への配慮

省エネルギーと廃棄物の適正管理を実施し、継続的に改善します。

### 3. 環境意識の向上

一人ひとりが環境保全に対する自覚を持つとともに、環境教育を積極的に推進します。

### 4. 環境情報の開示

環境情報を積極的に開示し、透明性のある環境保全活動に努めます。

<sup>\*</sup> 環境方針・環境目標・計画の策定と実施および監視と測定・監査・見直しといった一連のプロセス

## 環境マネジメント体制図

### 環境最高責任者：代表取締役社長

- ① 環境方針の制定および見直し
- ② マネジメントレビュー(経営層による見直し)の実施
- ③ 環境担当役員への任命
- ④ 全社環境会議<sup>\*</sup>の開催

### 環境統括責任者：環境担当役員

- ① EMSの総合管理
- ② 全社環境目標の承認
- ③ 環境最高責任者への情報提供
- ④ 全社環境会議の運営 など

### 全社EMS事務局長 (CSR部長)

- ① 全社EMS事務局業務の統括
- ② 環境統括責任者の補佐 など

### 全社EMS事務局 (CSR部 環境グループ)

- ① EMSに関する管理・運用・外部環境審査対応
- ② 内部環境監査対応

### 全社環境会議



<sup>\*</sup> 全社環境目標の協議と進捗管理を行うとともに必要な措置の決定を行い、EMSが適切で効果的に機能していることを確認する会議

## ISO14001 認証取得

事業活動が及ぼす環境への負荷を少なくするために環境保全に積極的に取り組んでいます。そして、その成果を内外に客観的に示すため、ISO14001を認証取得してい

ます。現在は、雪印メグミルク、みちのくミルク(株)、いばらく乳業(株)、八ヶ岳乳業(株)の4社で認証を取得しています。



審査風景(中四国支店)



審査風景(神戸工場)



審査風景(トップヒアリング)

## 環境監査体制

環境監査には審査機関による外部審査と社内で行う内部監査があり、EMSの運用状況や法令遵守の状況を総合的に確認しています。雪印メグミルクの内部環境監査は、生産部が行う第一者監査と、CSR部が行う第二者監査の2種類を組み合わせ実施しています。第一者監査では業務を良く知る監査員による業務改善効果が、第二者監査では客観的な立場からの法令チェックや課題抽出に大きな効果が出ています。



内部環境監査(神戸工場)

## 環境教育

全社EMS事務局が主催するe-ラーニングや、内部環境監査員養成研修、部署独自に実施する個別教育など、各種の環境教育制度があり環境意識の向上を図っています。階層別e-ラーニングのうち、一般教育コースでは雪印メグミルクの全役員・従業員(約4,100名)に受講を義務付け、毎年受講率100%を達成しています。



内部環境監査員養成研修

## 各部門による取組み

雪印メグミルクグループは、製品ライフサイクルの各工程で多くの天然資源・エネルギーを使用していますが、その一連の工程で発生する資源のロスや環境負荷をできるだけ小さくするため、各部門で様々な取組みを行っています。

|      |  |
|------|--|
| 管理部門 | クール・ビズやウォーム・ビズによる冷暖房に必要なエネルギーの抑制やIT化によるペーパーレス化など |
| 研究部門 | 環境に配慮した商品設計など                                    |
| 調達部門 | プラスチック容器の薄肉化や環境に配慮した容器への変更など                     |
| 生産部門 | エネルギーの効率化や排水の浄化処理など                              |
| 営業部門 | エコドライブの推進とハイブリッド車の積極的導入など                        |
| 物流部門 | 原材料や商品の輸送でモーダルシフト*や積載率の向上など                      |

※ 貨物輸送を自動車から鉄道・船舶へと切り替えることでCO<sub>2</sub>排出量を削減し、環境負荷を削減する手法

### Voice



雪印メグミルク  
幌延工場  
工務課

尾崎 洋之

**各自「自分にできることをやろう」というスタンスで、環境活動を行っています。**

環境問題に取り組む際、「自分一人の力では…」「こんな少ない効果では…」と考え、活動に消極的になってしまうことがあります。幌延工場では「ハチドリになろう!」をスローガンに、各自「自分にできることをやろう」というスタンスで環境活動を行っています。これは、「山火事が起きたとき、ハチドリだけが『自分にできることをやる』という意識を持って、くちばしに水を含んで火に水をかけ続けた」という南米先住民に語り継がれている話からきています。私はEMS事務局として、工場の全従業員が各自できることを積み重ねて成果を挙げられるような体制の構築やその適切な運用を実施することで、社会に貢献したいと考えています。

## 排水処理能力向上

大樹工場では、12月中旬に新排水処理設備へ全面的な切替えを実施しました。処理能力を1.5倍に増やし、処理方式として流動担体前処理※1と活性汚泥法※2を採用したことで、安定した運転が可能となりました。また、放流水質の常時監視が可能となったほか、より一層の省エネと脱水汚泥の削減が期待されています。

※1 微生物処理する処理槽に多数設置した担体(接触材)に微生物を付着させ、微生物が作る生物膜の面積を拡大させることで、排水処理能力をあげること。

※2 排水に空気を吹き込んで、排水中の有機物を高濃度の微生物(活性汚泥)で処理し、きれいな水にすること。



排水処理設備(大樹工場)

## CO<sub>2</sub>排出量削減

幌延工場では、2月にボイラーを更新しました。燃料を重油から液化天然ガス(LNG)に転換したことにより、CO<sub>2</sub>の排出量が約2割削減されます。また、重油ボイラーは定期的に内部清掃が必要で、その際に煤塵として廃棄物が約4t/年発生していましたが、それもゼロになりました。その他、井戸ポンプのインバーター化や排水設備の運用見直しなどで、省エネとCO<sub>2</sub>排出量削減、廃棄物削減を図っています。



ボイラー(幌延工場)



液化天然ガス  
貯蔵タンク  
(幌延工場)

## プラスチック使用量削減に向けた活動

野田工場・福岡工場で使用している牛乳瓶の樹脂キャップの軽量化に取り組み、13%の軽量化を実現しました。軽量化により年間25t※のプラスチック使用量削減につながる見込みです。また、プラスチック問題への意識を高める社内啓発活動を行っています。

※ 2018年度販売実績から算出した見込み値



牛乳瓶の樹脂キャップを  
軽量化

## 環境イベントへの積極的な参加

6月の「エコライフ・フェア(代々木公園)」や12月の「エコプロ(東京ビッグサイト)」では、全国牛乳容器環境協議会の一員として、全国牛乳パックの再利用を考える連絡会と協働し、牛乳パックの手開き体験や手すきはがきづくり体験、ワークショップなどを通じてたくさんの方々々に牛乳パックリサイクルの大切さをお伝えしました。



エコライフ・フェア



エコプロ

## カーボン・オフセットの取組み

カーボン・オフセットとは、植林などの森林保護やクリーンエネルギー事業で得られたCO<sub>2</sub>の排出権(クレジット)を購入することにより、企業活動で排出されたCO<sub>2</sub>の一部を間接的に削減する制度です。雪印メグミルクは、従来より「北海道 森と大地のカーボンクレジット」、中標津町(北海道)の「中標津町町有林J-クレジット」を購入していましたが、2018年度は大樹町(北海道)の「晩成温泉への木質バイオマスボイラー導入事業に係るJ-クレジット」を購入し、森林資源の維持に寄与しています。



大樹町「晩成温泉への木質バイオマスボイラー導入事業に係るJ-クレジット」購入証明書贈呈式

## 持続可能な社会の実現に向けた調達活動

「雪印メグミルクグループ調達方針」に基づき、公正な取引、人権・環境などの社会的責任と持続可能性に配慮したうえで原材料などの調達活動を推進していきます。また、お取引先様の取組み内容についても定期的に調査を実施しています。

### 雪印メグミルクグループ調達方針

雪印メグミルクグループは、グループ企業理念のもと、「雪印メグミルクグループCSR方針」にのっとり、主体的に、企業としての社会的責任に配慮した調達活動をお取引先さまと共に推進し、豊かで持続可能な社会の実現に貢献します。

#### 1. 法令の遵守、社会規範の尊重

- ・関係各国の法令を遵守し、社会規範を尊重して調達活動を行います。
- ・基本的人権の尊重、労働環境の改善等の社会的責任にも配慮して調達活動を行います。

#### 2. 品質・安全性の確保

- ・高品質で安全な商品を提供するための調達活動を行います。
- ・安定的かつ適正な価格で商品を提供できるように調達活動を行います。

#### 3. 公正・公平な取引の実践

- ・お取引先さまとは公正・公平な取引を行います。
- ・調達取引に関わる機密情報および個人情報、適正に管理します。

#### 4. 地球環境への配慮

- ・私たちの基盤である「酪農」は、豊かな自然環境があって初めて成り立ちます。持続可能な社会の実現に貢献すべく、生物多様性を重視し、地球環境に配慮した調達活動を推進します。

### 森林認証紙の使用

使用する紙については可能な限り、持続可能性に配慮した森林認証紙への切替えを順次進めています。責任ある森林管理をされた森林および、そこから生まれた林産物に対する国際的な森林認証制度であるFSC®またはPEFCの森林認証紙を、「雪印メグミルク牛乳」などの商品容器に採用しています。商品に関わる紙容器や外装ダンボールだけでなく、印刷用紙・印刷物・店頭販促資材についても取り組んでいます。



森林認証紙使用商品



FSC®  
認証マーク



PEFC  
認証マーク

(注)SGEC/PEFCジャパンの許可を得て掲載しています。

### RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議)への加盟

パーム油の原料となるアブラヤシの農園開発のため、マレーシアやインドネシアを中心とした多くの熱帯雨林が焼き払われるなど、問題が指摘されています。このような問題に取り組むため、2004年にパーム油生産業、小売業、環境NGOなど、7つの関係団体を中心となり、認証機関RSPOが設立されました。雪印メグミルクも、健全なパーム油産業の発展を目指す趣旨に賛同し、7月、RSPOに加盟し、認証油の使用を一部商品から開始しています。



人と社会

# 多様な人材が活躍できる 職場の実現

雪印メグミルクグループは、性別・年齢・国籍・障がいの有無など様々な背景を持つ人が、それぞれの個性を認め、尊重し、互いの能力を発揮することで相乗効果を生み出す企業を目指しています。また、育児や介護をはじめとした多様な働き方をサポートするための環境整備にも注力しています。

## 働き方改革

2016年度より「労働生産性の向上と業務改革」による働き方改革に取り組んでいます。目標のひとつである時間外労働時間の20%削減(2015年度上期比)は、目標を上回る進捗で推移しており、着実に成果を挙げています。会議運営の効率化や業務の削減・見直しなどによる労働生産性の向上を図るとともに、有給休暇の取得促進を進めています。

働く環境の整備として、テレビ会議やウェブ会議システムの活用、ペーパレス化による業務の効率化を進めており、2018年度には在宅勤務制度を導入し、育児や介護など制約のある社員やライフスタイルに応じて利用できる仕組みを導入しています。

従業員のワーク・ライフ・バランスと企業の持続的成長を目指して、更なる働き方改革を推進していきます。

### 主な取組み

#### タイムマネジメントの強化

(2019年度末 時間外労働時間の目標削減率：20%(2015年度上期比))

- ・パソコンのログイン/ログオフ時刻記録を活用した意識向上
- ・部署単位での時間外労働状況の分析と削減目標の設定
- ・全社目標達成率に応じた従業員への還元(インセンティブ手当の支給)

時間外労働時間の減少率 ➡ P.24

### 労働生産性の向上と業務改革

#### 有給休暇の取得推進

(2019年度末 目標取得率：70%以上)

- ・シフト見直しなどによる取得しやすい環境の整備
- ・半日有給休暇制度

有給休暇取得率 ➡ P.24

#### チャレンジ3/4活動

- ・部署単位で業務の効率化・スリム化推進
- ・取組み効果の目標設定および進捗確認

#### 業績評価との連動

- ・取組み結果の人事評価への反映

#### 効率的な会議の推進

- ・会議進行の改善による円滑化・効率化

#### ペーパレス化

- ・会議室機材やテレビ会議・ウェブ会議システムの整備、文書の電子化などにより、効率的な会議の推進、働く場所の多様化へつなげる

### 働く環境の整備

#### 在宅勤務制度

- ・柔軟・効率的な就業環境の整備、ライフスタイルに応じた働き方の推進

#### サテライトオフィス

- ・営業担当者の社外オフィス活用による時間の効率化、生産性の向上(首都圏エリア)

## 人材育成

雪印メグミルクグループは、「最大の経営資源は人材である」との考えのもと、「グループ中期経営計画2019」人材育成計画に基づき、スキル開発に軸足を置いたプログラム、人材の多様性確保を目的としたキャリア開発支援、グループ会社の研修参加など、グループ全体での人材育成に取り組んでいます。

### 取組み1：スキル開発

従来、研修は各社で個々に実施していましたが、2017年度より雪印メグミルクの「新入社員研修」や「新任経営職研修」にグループ会社従業員が参加しています。さらに、2018年度は階層別研修にもグループ会社従業員が参加しました。

### 取組み2：キャリア開発

人材の多様性を尊重するためのマネジメントや、部下の主体的なキャリアデザイン\*と自律的な能力開発を促進する「ワークショップキャリア支援」の研修を2017年度に引き続き実施したほか、2018年度からは新たにキャリアカウンセリング制度を導入。人事部の有資格者が上司以外の第三者として個別相談に応じています。

\*キャリアについて考え、「なりたい自分」に向けて自ら能力を開発すること

### 研修体系

| 階層  | スキル開発プログラム                       |  | キャリア開発プログラム           |  |
|-----|----------------------------------|--|-----------------------|--|
|     | 階層別研修                            | 公募型ビジネススキル研修   | ワークショップ               |  |
| 経営職 | 所屬長<br>プロジェクトマネジメント研修<br>女性課長職研修 | 指導のスキルコーチング・ティーチング<br>プレゼンテーション<br>ネットワーキング<br>ロジカルシンキング+問題解決(中級)<br>ロジカルシンキング+問題解決(基本)<br>ファシリテーション<br>アカウンティング | WS キャリア支援             |  |
|     | 新任経営職<br>新任経営職研修(基礎/フォローアップ)     |  | WS キャリア・ドック38 (38歳)   |  |
|     | 6級<br>6級昇級者研修<br>女性リーダー研修        |  | WS キャリア・ドック30 (30歳)   |  |
| 一般職 | 5級<br>5級昇級者研修                    | 新任職制研修<br>リーダーシップ開発研修  | WS 女性リーダーチャレンジ        |  |
|     | 4級<br>4級昇級者研修                    |  | WS キャリア・トライ (新卒二年目社員) |  |
|     | 3級<br>3級昇級者研修                    |  |                       |  |
|     | 2級<br>新入社員研修<br>酪農研修<br>工場実習     |  |                       |  |
|     | 1級                               |  |                       |  |

## 女性活躍推進

多様な人材が能力を発揮する環境を作り上げるための中核的な位置づけとして、「女性活躍推進」に引き続き下記のとおり取り組んでいます。

「女性活躍推進」宣言

👉 <https://www.meg-snow.com/corporate/womanactivation/>

### 取組み1：仕事と家庭の両立を支援

出産・育児と仕事の両立を支援するため、男女の育児休職者に対して、休職中の職場との連絡体制や自己啓発、復職前面談などのプログラムを提供しています。2018年度には「新宿区ワーク・ライフ・バランス推進優良企業」に認定されました。



新宿区ワーク・ライフ・バランス推進優良企業 表彰式

### 取組み2：計画的な人材の育成

キャリアビジョンの実現に向けて主体的に行動することへの意識づけや、リーダーが必要とするスキルの習得を目的に、継続して「女性リーダー研修」「ワークショップ女性リーダーチャレンジ」を実施しました。研修での先輩社員との意見交換を通じ、キャリアへの不安軽減、ネットワーク構築の一助にもなっています。2018年度は、「新任経営職研修」とは別に、新たに選抜型の「女性課長職研修」を導入。すでに経営職である女性社員に対しても、さらなるキャリアアップをサポートするための研修機会を提供しています。

### 取組み3：女性活躍推進に対する意識の醸成

女性活躍推進に対する意識の醸成、制度などの理解を深めるため、社内イントラネットや社内報を通じた情報発信を強化するとともに、2018年度は先進企業を招き、「人材の多様性推進フォーラム」を実施しました。

### Voice



雪印メグミルク  
中部統括支店  
市乳二課

大谷 純子

産休・育休後も、慌ただしいながらも充実した毎日を送っています。

主に量販店に対する家庭用市乳商品の営業をしています。3年間の産休・育休を経て復帰し短時間勤務の制度を利用中で、帰宅後の子供との時間が確保でき助かっています。以前は結婚後も仕事を続けられるか不安でしたが、社内の女性活躍推進研修で結婚・出産後も生き生きと働く先輩社員を見て、自身の目標像を思い描くことができました。現在は上司や同僚のサポートを得ながら、慌ただしくも充実した毎日を送っています。課題は限られた時間の中でいかに効率的に仕事をし、得意先からの信頼を得るかです。効率的な得意先対応のためにも、より柔軟な働き方ができる制度が充実すればうれしく思います。



人と社会

▶ CSR重要課題(マテリアリティ)

# 地域社会への貢献

雪印メグミルクグループは、事業活動を通じて地域社会と交流し、連携することで、人や社会との調和を図り、地域社会に貢献しています。

## 北海道包括連携協定

雪印メグミルクグループは、北海道と包括連携協定を2007年に締結し<sup>※</sup>、乳製品製造などで培った技術を活かして、「酪農」や「食」の分野で北海道経済の活性化に取り組んでいます。 <sup>※</sup>2007年当時は、雪印乳業(株)、雪印種苗(株)、(株)雪印パーラーと北海道との協定

### 具体的な取り組み事項

#### 1. 「酪農」の振興に関する事項

- ・「環境配慮型酪農」に関する技術支援
- ・チーズ製造技術の普及支援 など

#### 2. 「食」の安全・安心、産消協働<sup>※</sup>に関する事項

- ・クリーン農業に関する技術支援
- ・道産食品の安全・安心に向けた取り組みの支援 など

#### 3. 子育てや健康づくりに関する事項

- ・子育てに関する地域活動の支援
- ・食育や健康づくりに関する支援
- ・スポーツの振興に関する支援 など

<sup>※</sup>地域の消費者と生産者が連携し、地元の資源や生産物を地元で消費・活用することにより、域内循環(人・もの・お金の流れ)を高めて地域経済の活性化を図る運動

#### 4. 北海道の魅力ある「観光」の振興に関する事項

- ・「花観光」に関する支援
- ・世界自然遺産
- ・北海道遺産に関する普及啓発
- ・雪印メグミルク「酪農と乳の歴史館」における北海道観光PR など

#### 5. その他必要と認める事項

- ・環境に対する取り組み
- ・防災活動への支援
- ・北海道の広報活動への協力 など

### チーズ製造技術の普及支援事業

チーズ製造技術の普及支援事業として、「北海道ナチュラルチーズ製造レベルアップ研修会」が、北海道農政部主催により中標津町で開催されました。道内のチーズ工房やチーズ作りを目指している方々が、9月に3日間、チーズ製造に関する基礎的な知識の習得や、衛生管理に対する理解の醸成、意識の向上を図る「基礎講習」「衛生講習」、工房のチーズを試食しながら製造者間のつながりを図る「地域交流研修」、製造技術の向上を図る「地域製造講習」を受講し、雪印メグミルクからはミルクサイエンス研究所のスタッフを講師として派遣しました。



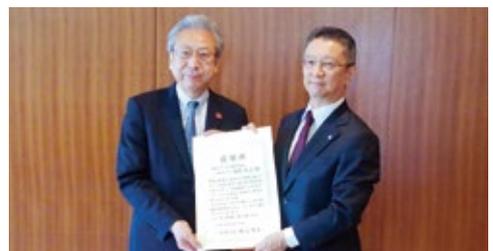
衛生講習



地域製造講習

### さっぽろまちづくりパートナー協定

2012年3月に札幌市と雪印メグミルクは「さっぽろまちづくりパートナー協定」に調印しました。雪印メグミルクは、「酪農と乳の歴史館」の見学者数に応じ「さぽーとほっと基金」に寄付を行い、子供の健全な育成を支援する活動を応援しています。2018年度も「酪農と乳の歴史館」の入館者1人につき10円を寄付し、札幌市の岸副市長(当時)より感謝状が贈られました。



札幌市岸副市長(当時)と西尾社長

## 災害対策を通じた地域とのパートナーシップ

近隣地域と災害対策に関する協定を締結している事業所では、日頃から合同訓練を行うほか、大規模災害発生時には相互に協力して避難場所や災害応急用井戸水や物資の提供を行い、共に被害軽減に取り組むこととしています。

### 西日本豪雨災害（7月）

原料乳輸送や商品配送の遅れで店頭での欠品が発生したことから、今後の対策として、非常時の社内情報共有と意思決定による機動的な対応を図るための災害発生時の態勢を見直しました。

### 北海道胆振東部地震（9月）

甚大な被害が発生した地域へ支援物資としてジュースを提供、被災者支援に向け日本赤十字社へ2千万円、道内酪農支援に向け北海道庁へ3千万円を寄付しました。また、大規模停電により雪印メグミルクの工場は操業不能となりました。このことから、酪農乳業者による協議を経て、その役割分担に基づき、道内の各工場に必要な自家発電機を設置することとしました。

## 食用油を配送車両燃料として再利用（エスアイシステム）

（株）エスアイシステムでは、地域の食品リサイクル推進と循環型社会の形成のため、愛媛県内のコンビニエンスストア店舗様への配送車両にB5軽油（エコマーク認定のバイオ燃料）を使用しています。B5軽油は、主に愛媛県内の家庭から回収した使用済み食用油のほか、コンビニエンスストア店舗様および総菜などの製造工場で使用された食用油を原料としています。

### 再利用フロー（イメージ）



## スキージャンプ振興への貢献

雪印メグミルクでは、スキージャンプ大会への協賛や雪印メグミルク所属選手による競技活動を通じて、長年にわたり日本のスキージャンプの振興に貢献してきました。夏季に開催している「雪印メグミルク杯 ジュニアサマージャンプ大会」は、小中学生ジャンパーの育成に貢献したいとの願いで開催し、8月で8回目となりました。また、毎年開催している「雪印メグミルク杯 全日本ジャンプ大会」は、1月の大会で60回目を迎えました。更に、選手育成に熱心な地域の更なる活性化を願い、新たに北海道下川町で「雪印メグミルク杯 ジュニアジャンプ下川大会」を開催しました。



雪印メグミルク杯  
ジュニアジャンプ下川大会



スキー部8名の選手と監督・コーチ

### Voice



雪印メグミルク  
スキー部 主将

伊東 大貴

### 皆様の応援に応えられるよう、頑張りたいと思います。

今季のスキー部も、国内外で多くのスキージャンプ大会に臨み、国内戦全23戦中12勝し、若手の佐藤慧一選手は、社会人初優勝をはじめ4勝をあげる活躍をしました。2月に開催されたワールドカップフィンランド大会、ノルディック世界選手権オーストリア大会の団体戦では、私と小林潤志郎選手、佐藤幸椰選手と、日本代表選手4名中3名の雪印メグミルク選手が出場し、日本に2つの銅メダルをもたらすことができました。ノルディック世界選手権の団体戦での表彰台は10年ぶりでした。雪印メグミルクでは、私の出身地でもある北海道下川町のジュニアチームの支援も始めました。これからもより一層、皆様の応援に応えられるよう頑張りたいと思います。